

Lesson5 Places to Go, Things to Do

本単元で育成する資質・能力

チャレンジ精神・将来に通用する基礎学力

- 1 日 時 : 平成29年10月4日(水)
- 2 場 所 : 2階多目的教室
- 3 学年・学級 : 3年2組 37名(男子21名 女子16名)
- 4 単元名 : Lesson5 Places to Go, Things to Go
- 5 単元について

(1) 単元観

本単元は、4人の中学生が、行ってみたい場所や好きなことについてそれぞれ発表している内容である。そのうち、ケンのスピーチでは、ブラジルに行きたい理由を、国の特徴を交えて5段落で構成したまとまりのある文章が紹介されており、聞き手や読み手にわかりやすく伝えるにはどのように構成すべきかを学びながら、自分の行きたい場所等についてスピーチ活動を行うのに適した単元になっている。

指導内容としては、学習指導要領第2章(1)言語活動イ話すこと「(オ)与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること」、エ書くこと「(オ)自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」(3)言語材料のエ文法事項(イ)文構造ウ代名詞のうち「(b)関係代名詞のうち、主格のthat, which, whoおよび目的格のthat, which, whoの制限用法」と接触節を受けて設定する。

日本語との語順の違いが顕著なこの文型においては、まず語順の定着を図ることに重点を置き、過度に難しいものや複雑なものに偏ることなく指導したい。

これまでの英作文活動やスピーチ活動に比べ、設定の文の数を増やし、段落構成や接続詞を用いた内容を考えさせて原稿を書かせていくことで、本校が目指す、資質・能力の「チャレンジ精神」を育成することができると考え、本単元を設定した。

(2) 生徒観(調査結果からみる課題)

本学級の生徒たちは、これまで、1学期間に1~2回ずつ、重要文法を含む英作文活動やALTとのスピーチテストを行ってきた。今年度1学期、中間・期末試験で、書くことによる評価を行ったところ、本学級の結果は次の通りであった。

| 重要文法と文数の条件 | 正答 | 無解答 | 誤答 | 誤答のうち、指定された文数に至らなかった割合 |
|--------------|-----|-----|-----|------------------------|
| 【中間試験】受動態で4文 | 57% | 11% | 32% | 36% |
| 【期末試験】経験で5文 | 65% | 11% | 24% | 50% |

英作文活動の際は、約2時間分の授業を使い、例文の提示・英文作成・添削を通して、構成や理由、接続詞等を指導してから試験に臨ませるようにしている。しかし、条件の文数が増えると、全文を書き切れない生徒の割合が高まる。

また、これまでの英作文活動を通して、多くの生徒が、「書く」ことに対して慣れてきた一方で、スローラーナーの中には、何を書いたらよいか日本語でさえ思いつかない生徒や、「どのように文を繋げるか、どの文法表現を用いるかわからない」「ミスを指摘されることで自信や意欲を失う」といった生徒も多い。

比較的英語が得意な生徒の中には、点数にこだわるあまり、例文とほぼ同じ内容で簡潔に済ませる生徒もいる。

先日行った、学習アンケートでは、【授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみたい」と思います。】に対する肯定的回答は68.6%、【授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。】に対する肯定的回答は51.4%であった。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

本単元では、最終的なゴールとして、関係代名詞を用いたスピーチ活動が設定されている。そのため、単元の1次の授業から、スピーチに使えるような表現を取り入れた文法指導を行ったり、本文理解の際には、接続詞や構成を意識させたりしながら、スムーズにスピーチ作成に入れるようにする。

今回は生徒実態を踏まえ、本来設定されている「行きたい場所について」というテーマに加え、尊敬する人や、趣味や特技、興味のあることなど、複数のテーマに広げた中から選ばせ、生徒たち自身が「書きたい」「このテーマなら書けそう」という意欲を持てるようにする。

また、これまでは5文程度のまとまりのある英作文、スピーチ原稿作成を行ってきたが、今回の「7文以上で書く」という課題は、これまでの中で一番多い文数設定である。

まずはマッピングを用いて、そのテーマでどのようなことを伝えられるか、どのような順番で伝えれば聞き手に理解しやすいかなど、構成を十分に考えさせた上で英作文の段階に進める。その際には、どの文法や表現を使えば、より正確に伝えられるかを考えさせることで基礎学力も高めたい。

また、7文で自己表現するという課題にチャレンジする気持ちを引き出すため、評価は二段階で行う。一段階目は、間違いを恐れずのびのびと表現できるよう、「意欲・関心」で内容を評価する。その後、二段階目として、スピーチテストやライティングテストで文法的な正しさや文の繋がりを「表現」の項目で評価する。

活動の途中では、内容を生徒間で交流させ、互いの文を参考にさせながら表現の幅を広げ推敲できるようにする。英語が得意な生徒も苦手な生徒も、自分が伝えたいことが正しく表現でき、達成感を持てるよう、丁寧に段階的に授業を展開したい。

単元の目標

- 関係代名詞を用いて、受け手に理解しやすいようなまとまりある英文で自分の考えを伝えようとしている。
- 日本を含めた世界の様々な国・地域、その文化や生活様式について知り、関心を高める。
- 関係代名詞を用いた他国についての英文を聞いたり読んだりして、その内容を理解できる。
- 関係代名詞（主格・目的格）を理解し、正しく使うことができる。

【学習指導用領解説外国語編（1）イ（オ）、エ（オ）、（3）エ（イ）】

単元の評価規準

| コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化に対する知識・理解 |
|--|---|------------------------------------|--|
| 違いを恐れず、聞き手・読み手が理解しやすいよう工夫しながら、自分の考えを伝えようとしている。 | 与えられたテーマについて、関係代名詞を用いて、まとまりある英文で説明することができる。 | 関係代名詞を用いて表現された英文の内容を正しく理解することができる。 | 関係代名詞（主格・目的格）の用法・語順を理解し、正しく使うことができる。 日本を含め、世界の様々な国・地域、その文化や生活様式について知り、関心を高める。 |

6 指導と評価の計画

全15時間（本時は10/15）

| 次 | 学習内容（時数） ・ポイントになる生徒の思考 | 主な学習内容 | | | | 資質・能力 の評価 |
|---|---|--------|---|---|---|---------------------------------------|
| | | 関 | 表 | 理 | 知 | |
| 1 | ○主格の関係代名詞 that, who, which の用法・語順を理解する。（1） ・修飾する部分、先行詞はどこだろうか。 情報の収集 | | | | ○ 主格の関係代名詞の用法や語順を正しく理解し、 who, which を使い分けることができる。 | 将来に通用する基礎学力文構造を理解し、正しい語順で並べ変えることができる。 |
| 2 | ○Get Part1 の内容を理解し、音読する。（1） ・どのような構造でスピーチ文ができているか。 課題の設定 | | | ○ | モンゴルの住居について書かれた内容を、正しく理解している。 | |
| 3 | ○Get Part2 の内容を理解し、音読する。（1） ・どのような構造でスピーチ文ができているか。 課題の設定 | | | ○ | 映画について書かれた内容を、正しく理解している。 | |
| 4 | ○目的格の関係代名詞 that, who, which の用法・語順を理解する。（1） ・修飾する部分、先行詞 | | | | ○ 目的格の関係代名詞の用法や語順を正しく理解し、 who, which を使い分けることができる。 | 将来に通用する基礎学力文構造を理解し、正しい語順で並べ変えること |

| | | | | | | |
|----|---|---|--|---|--|---|
| | <p>はどこだろうか。</p> <p>情報の収集</p> | | | | | <p>ができる。</p> |
| 5 | <p>○Get Part3 の内容を理解し、音読する。(1)</p> <p>・どのような構造でスピーチ文ができているか。</p> <p>課題の設定</p> | | | ○ | <p>ケニアの野生動物について書かれた内容を正しく理解している。</p> | |
| 6 | <p>○ALTとの活動を通して関係代名詞に慣れる。(1)</p> <p>・何について説明している関係代名詞の文だろうか。</p> <p>情報の収集</p> | ○ | | | <p>関係代名詞を使った内容を正しく聞きとり、活動する。</p> | <p>チャレンジ精神 聞こえた音を頼りに、最後まで聞き取ろうとしている。</p> |
| 7 | <p>○ブラジルについてのスピーチを読み、内容を理解する。(3)</p> <p>・受け手にわかりやすく伝えるために、どのような語が使われているだろうか。</p> <p>課題の設定</p> | | | ○ | <p>ブラジルについて書かれたスピーチ内容を正しく理解している。</p> | |
| 8 | <p>○関係代名詞を使った7文以上の自己表現文の構成を考える。(1)【本時】</p> <p>・受け手にわかりやすく伝えるためには、どのような語や構成が必要だろうか。</p> <p>整理・分析</p> | ○ | | | <p>受け手にわかりやすく伝わるような、スピーチの構成を考える。</p> | <p>チャレンジ精神 マッピングにより、構成やつなぎ言葉を用いて7文以上の原稿を作成している。</p> |
| 9 | <p>○関係代名詞を使った7文以上の自己表現文を書く。(1)</p> <p>・受け手にわかりやすく伝えるためには、どのような情報を入れたら良いだろうか。</p> <p>まとめ・創造・表現</p> | ○ | | | <p>間違いを恐れず、受け手が理解しやすいよう工夫しながら、自分の考えを伝えようとしている。</p> | <p>将来に通用する 基礎学力 意図に合った既習文法や表現を使って伝えようとしている。</p> |
| 10 | <p>○自分が書いた英文を推敲し、スピーチ練習を行う。(1)</p> | ○ | | | <p>受け手にわかりやすく伝わるような原稿を完成さ</p> | |

| | | | | | | |
|----|---|---|--|---|------------------------------------|---|
| | <p>・どの部分を強調すれば、印象に残るスピーチになるだろうか。</p> <p>まとめ・創造・表現</p> | | | | せ、伝わりやすいスピーチのコツをもとに練習している。 | |
| 11 | <p>○聞き手に伝わるようなスピーチを行う。(1)</p> <p>・相手に伝わりやすい表情や態度はどのようなものだろうか。</p> <p>実行</p> | ○ | | | 間違いを恐れず、ALTにスピーチをすることができる。 | チャレンジ精神 自分の考えが、より伝わるよう、強弱や間を工夫して伝えている。 |
| 12 | <p>○旅行案内について聞きとる。関係代名詞の問題演習を行う。(1)</p> <p>・どのような情報を聞き取る必要があるか。</p> <p>まとめ・創造・表現</p> | | | ○ | 関係代名詞を用いて表現された英文の内容を正しく理解することができる。 | |
| 13 | <p>○単元テストを行う。(1)</p> <p>・先行詞、修飾部はどこだろうか。</p> <p>振り返り</p> | | | ○ | 関係代名詞の用法・語順を理解し、正しく使うことができる。 | |

7 本単元において育成しようとする資質・能力との係わり

本校において、重点的に育成しようとする資質・能力は次の6つである。

| | |
|---------|---------------------|
| 知識 | ①将来に通用する基礎学力 |
| スキル | ②課題発見・解決力 ③人間関係形成能力 |
| 意欲・態度 | ④チャレンジ精神 ⑤耐える力 |
| 価値観・倫理観 | ⑥人としての思いやり |

この中でも、特に本単元では、次の点に重点を置くものとする。

【スキル】

①将来に通用する基礎学力

- ・複雑な関係代名詞の文構造を理解し、正しい語順で表現できる。
- ・これまでの既習事項や接続詞等の中から、より正確に伝わる表現で伝えることができる。

④チャレンジ精神

- ・関係代名詞を使って7文以上のスピーチ原稿を考える活動を通して、これまでより難しい課題に対して最後までチャレンジする精神を高める。

8 本時の展開

(1) 本時の目標

自分が選んだテーマについて、関係代名詞を使って説明する7文の構成を考える。

(2) 観点別評価規準

受け手にわかりやすく伝わるような、スピーチの構成を考える。

(3) 学習の展開 (10時間目/全15全時間)

| | 学習活動 | 指導上の留意事項■ 努力を要する生徒への 指導の手立て◆ | 観点の評価○ 資質能力の評価● |
|----|---|---|--------------------|
| 導入 | あいさつ、ねらいの確認・記入 | | |
| | 関係代名詞を含む、7文のスピーチの構成を考えることができる。 | | |
| 展開 | 関係代名詞の復習 ・語順の並べ替え問題 | ■時間を計りテンポよく進める。 ◆ドリル問題の中に、英作文に使えそうな表現を入れておき、参考にできるようにする。 | |
| | スピーチの構成作り ・テーマの提示 尊敬する人 訪れたい場所 興味のあるもの など ・マッピングによるテーマ決め 【予想される生徒の反応】 | ■原稿作成までのフローチャートを使って、進め方を全体に示してから構成に入らせる。 ■いくつかのテーマでマッピングをさせ、7文に達しそうなテーマを決めさせる。 | |
| | <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>【尊敬する人】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">イチロー</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>【キーワード】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">野球</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">習慣</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">ペット</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>【情報・意見など】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 小学校で始めた。 約25年間プロとして活躍している。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 毎朝カレーを食べる。 毎日決まったルーティーン。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 名前は「いっきゅう」。 時間がある時はいつも遊ぶ。 </div> </div> </div> <div style="margin-top: 10px; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>【尊敬する理由】 すごい選手だから。</p> </div> | | |

| | | | |
|-----|--|---|---|
| | <div data-bbox="252 250 1361 689" data-label="Diagram"> </div> | <p>グループ（4人）でマッピングの交流（個人思考→集団思考）</p> <p>スピーチ文作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【主題】【展開】【まとめ】にあたる部分を、マッピングから選び出す。 ・理由や接続詞等を挿入しながら、日本語で原稿を作成させる。 ・既習事項で表現できるよう推敲させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 7文以上の自然な流れで構成されており、理由も示されている。 ○間違いを恐れず、受け手が理解しやすいよう工夫しながら、自分の考えを伝えようとしている。 |
| まとめ | ○振り返りの記入 | <ul style="list-style-type: none"> ■次時の予告をし、原稿作りのための資料を持参するよう伝える。 | |

(4) 本時で育成したい資質・能力の評価基準

| 資質・能力 | 評価規準 |
|---------|---|
| チャレンジ精神 | A 7文以上の自然な流れで構成されており，理由も示されている。 B 7文以上で構成されており，理由が示されている。 C 7文以上で構成されている。 |

9 板書計画

Wednesday, October fourth

理由・つなぎ言葉

関係代名詞を使った7文のスピーチの構成を考えることができる。

| 【行きたい場所】 | 【キーワード】 | 【情報・意見など】 |
|--|---|---|
| <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ブラジル</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 行きたい理由 したいことがたくさんある。 </div> | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">サッカー</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">カーニバル</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">ジャングル</div> | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">サッカーの本場で習いたい。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">とにかく派手。見てみたい。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">ピラニアを釣りたい。</div> |

because

so

but

First

Second

Finally

↑

推敲・完成
 表現方法の選定
 原稿作成
 テーマ決め
 構成作り